

ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i> Makino	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		ツチトリモチ科
選定理由	生育地と個体数がともに少ない。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	丈が7~15cmの多肉な寄生植物。根茎は年数と共に肥大する。1ヶ所の根茎から3~4個の花茎を出し、先端に橙色を帯びた肉穂花序を付ける。雌雄異株で雌株のみが見られる。花期は7~8月。	
生態的特徴	深山の落葉樹林内に生育し、カエデ属やシデ属の根に寄生する。	
分布状況	日本の固有種で秋田、岩手県以南、四国、九州に分布する。岐阜県においては飛騨地方と美濃地方東部でわずかに分布する。	
減少要因	生育地が主として亜高山帯であることから、登山道や、遊歩道、林道開設のための樹木の伐採などが考えられる。	
保全対策	深山の生態系を守るために、人の立ち入りや開発に伴う林道、遊歩道の設置は極力避ける配慮が必要である。	
特記事項	肉穂はキノコのような形をしている。	
参考文献	平凡社:野生植物Ⅱ	

文責:大澤律子